



ジョカツのススメ

女性が活躍できる企業は…
儲かるって本当!?

総務省の労働力調査によれば女性の労働力人口の割合（労働参加率）は1990年に30～34歳で52%でしたが、2020年には78%まで高まっています。

日本は仕事を持つ女性の比率が結婚や出産期に落ち込む「M字カーブ」がなだらかになる傾向があり働く女性は増えています。しかし、労働時間に関して女性は「フルタイム勤務」と「短時間勤務」の2つの山による「もう一つのM字カーブ」があると言われています。

国際労働機関（ILO）によれば、週平均の労働時間の性差は主要7カ国（G7）で日本が最も大きく10時間を超えています。ジェンダー平等が進んでいるアメリカやフランスなどでは5時間ほどの差異になっています。

企業にとっては、潜在的な女性の方たちの力を引き出すメリットは大きく、女性の管理職登用率が0.1ポイント上がると総資産利益率（ROA）が約0.5%、生産性が13%高まる関係があり、登用率が15%を上回ると企業業績が明確に向上する傾向があるというデータもあります。

山形県ではまだまだ女性管理職の方々は大

き活躍できていない傾向ですので、経営者の方々はどういった生産性の面からも人材活用の上で、メリットを生かせるような職場環境を作っていくことも考えていかなければならないと思います。

少子高齢化により人口が減少する中で成長力を上げるには、男女を問わず各人の能力が発揮できる環境整備が必要となり、業務効率向上に加え能力・スキルアップへの積極的な取り組みが必要でしょう。

既成概念にとらわれない新しい視点からの「働き方、働きやすさ」の追求がこれからの課題になると思います。

ぜひ私たち労務の専門家の意見なども参考にさせていただきながら、皆さんの会社らしい企業づくり、職場づくりを進めてみてください。

参考：日本経済新聞 2022. 1. 16

山形県社会保険労務士会
社会保険労務士 池田 清

